# 地域とともに育つためにおとなができること ～知的障害のある子どもの保育・子育て～

三重県立くわな特別支援学校非常勤講師
小杉（こすぎ）　真紀（まき） さん

講座４では小杉真紀さんに「地域とともに育つためにおとなができること～知的障害のある子どもの保育・子育て～」と題してご講演をいただきました。小杉さんは保育士として四日市市の保育園で勤務された経験があり、現在は三重県立くわな特別支援学校で非常勤講師をされています。また、地域とともに育つこと、暮らすことを意識されながら、障害がある子どもの子育てをされてきました。講演では出産や育児のこと、保育園・小学校・中学校・特別支援学校での様子やその時に感じた課題や社会的な障壁を克服していった経験などをお話しいただきました。

**○地域の保育園にて**

息子のりょうまさんはあけぼの学園（四日市市の児童発達支援センター）に１年間通いましたが、その後は地域の保育園に通いました。地域の保育園でも様々なことがおこりましたが、園長先生が定期的に茶話会を開いて子育ての悩みを共有できる場を作ってくれたり、保育園が終わった後に保護者どうしで家を行き来したりしながら話ができる関係を築けたことが卒園後も地域とつながるきっかけとなったそうです。

右の写真で三輪車をこいでいるのは外国にルーツがあるお友だちで後ろに座っているのがりょうまさんです。講演の中で「保育園ほど隔たりがない場所はない」とお話しされていましたが、この時期に障害によって分けるのではなく、仲間と一緒に過ごす時間や環境を作ることができたことはりょうまさんだけでなく周りの子どもたちにも重要な役割をはたしました。

**○小学校でのりょうまさん**

りょうまさんは就学相談では特別支援学校判定でしたが、地震などの災害が起こったときのことを考えると、災害弱者であるからこそ味方を増やすためには地域の小学校へ進学する必要があると考えました。右の写真は登下校の練習時につけていた「登下校練習中」と書かれたランドセルです。これをみて周りの子どもたちも「練習中なら本番中があるの」と声をかけてきたそうです。下校中に泣いて動けなくなった時には気づいた子どもが家まで「りょうまくんが泣いている」と呼びにきてくれたそうです。登下校を練習するのはりょうまさんだけではなく、まわりも一緒に登下校ができる地域、仲間になるように練習することができました。

## ・参加者の声から

- 地域とのつながりが一つひとつの出来事に結びついている事を感じました。保育園の時のつながりが、今も温かい見守りとなっている事に、本当に嬉しく、また、共に育つ仲間の強さも見せていただきました。
- 支援が必要な子どもの保護者からこれまでに育児の経験や思いをここまで間近に聞く機会がなかったので、すごく考えさせられる研修になりました。こちらの言い方ひとつでそんなつもりじゃなくても相手を傷つけたり、怒らせてしまったりすることがあるのだと改めて気づかされました。
- 小杉さんのお話の中で、保護者とのつながりも大事だということが印象に残りました。定期的に保護者が交流する場があることで、子どもの理解につながり、それが、また地域で、子育てをしていく見守りの体制にもなっていくことを学びました。